

C-3 インドネシア女子衣服の体温衛生学的研究  
神戸大教育 稲垣和子

目的 現在世界各国の民族が着用する衣服は、大体、腰布型、掛布型、貫頭型、体形型の四型式に類別することができる。演者は従来主として体形型衣服の保温力に関する実験を行なっているが、今回は腰布型衣服の代表とされるインドネシア女子民俗衣裳につき、その保温力に関して全様の実験を行ない若干の成績を得たので報告する。

方法 実験は人工気候室のほぼ中央に等身大銅製模型人体を立脚位とし、それにインドネシア女子民俗衣裳の代表的衣服であるカイン・パンジャン、及びカバヤとカイン・パンジャンの二種の着用様式の供試衣服につき、中等気温、有風無風の環境のもとに精密電位差計と銅コンスタンタン熱電対により、各々の衣服の保温力を測定し検索した。

結果 1)同一環境温熱条件下では、裸出面積が大きくなるにつれて総断熱力と風速との間には極めて高度な相関関係が認められ、二者のいずれの場合にも相関係数の信頼度は極めて高い。2)カイン・パンジャン、及びカバヤとカイン・パンジャンを比較すると、無風時においては前者の方が後者よりも保温効果は小さい。3)有風時においてはカバヤとカイン・パンジャンの上に重ね着した方が保温効果はより一層大である。4)インドネシア女子民俗衣裳は、我々の日常着用する体形型衣服よりも保温効果に対する風の影響が少ない。